

No.8 多発しているトラック - 墜落・転落の死亡災害事例（2020年）

2020年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
12	14 ～ 16	被災者は、荷物が納められたロールボックスパレット（約400kg）をトラックのテールゲートリフトに移動させこれを下ろそうとしていたところ、ロールボックスパレットとともに転落した。高さは1メートル弱であった。	170209	221	1	50 ～ 99
12	0 ～ 2	定期便の運行業務において、セミトレーラで高速道路を運行途中、高速道路を降り一般道を約1時間走行後、行き止まりの車両とほぼ同じ幅の道に入り込んだ後、その場所から脱出しようと車両を後退させたところ右後方をガードレールに接触、接触した場所を確認するため車両から降りた後、脇を流れる川に転落。車両停車位置の下流で発見。その場で死亡が確認されたもの。	40301	221	1	50 ～ 99
11	12 ～ 14	屋根補修工事において、被災者は、所属事業場から持参した屋根材の折板を、トラックの屋根にのぼり、高所作業車上の作業者に渡す作業をしていた。その際、トラックの屋根から転落し、死亡した。	30309	221	1	10 ～ 29
9	10 ～ 12	トラック等駐車場にて、各トラックにドライブレコーダーを取り付ける作業を行っていたところ、被災者がトラックの近くで仰向けに倒れていた状態で発見された。災害発生後、治療中であったが、後日死亡したもの。	40301	221	1	10 ～ 29
9	16 ～ 18	林道に駐車したトラックの荷台の上で、被災者が伐採が完了した木材を荷締めする作業を行っていたところ、トラックが逸走し始めた。被災者は逸走し始めたトラックの荷台から木材とともに、林道脇の沢に	60201	221	1	1 ～ 9

		墜落し、出血性ショックで死亡した。				
9	14 ～ 16	事業場敷地内の構内道路にて、草刈り作業を担当していた被災者が、作業場所へ向かうため、あおりのない貨物自動車の荷台の左側に座り、移動していたところ、下り坂の方へ右折した際に、体ごと外へ投げ出され転落した。被災者はコンクリートの地面に頭や顔を強く打ち、直ちに市民病院へ救急搬送されたが、死亡した。被災者は当時ヘルメット、上下作業着、長靴を着用。	150102	221	1	30 ～ 49
8	10 ～ 12	工場において鉄骨の積み込み作業後、荷台で水分補給をし、少し休憩した後、荷台から下りようとした際、立ちくらみでバランスを崩し、荷台から落ち左肋骨部骨折、頭部を強打した。その後、病院に搬送され治療を受けていたが後日死亡した。	40301	221	1	10 ～ 29
8	14 ～ 16	ホテルの敷地内において、プラスチック製コンテナ3個を車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.6t）で回収するため、労働者2名で同クレーン周辺にコンテナを移動させ、その後被災者一人で作業していたところ、夕方頃同クレーンの右後方付近で倒れている被災者を発見され、病院へ救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認されたものである。	150102	221	1	10 ～ 29
8	6 ～ 8	被災者は貨物自動車（粉粒体運搬車）のタンクに牛の飼料を投入するため、高さ283cmのタンク上部に上がり作業を行っていたところ、タンク上部より墜落、コンクリート地面に頭部を激突して死亡したものの。	40301	221	1	1 ～ 9
8	12 ～ 14	ダンプカーの荷台を後方に傾けて土砂を搬出する際、アオリが開かず、当該土砂が荷台後方に偏ったため、ダンプカーが後ろ向きにひっくり返って約5メートル転落したところ、運転席部分が近くに停車していたドラグショベルに激突し、運転手が被災したものの。	150102	221	1	30 ～ 49
	8	被災者はコンクリートを配送するため、コンクリートミキサー車にて建築現場に向かい、待機していたコンクリート圧送車と接続し、現場作業員がコンクリート打設を開始したところ、コンクリートが流れて				10

6	～ 10	こなかったため、ミキサー車に向かったところ、被災者があおむけに倒れているのを発見した。大学病院にて頸椎脱臼の治療を行っていたものの、後日肺炎により死亡した。	10901	221	1	～ 29
6	～ 12	工場において、被災者がトラック荷台で鉄筋材の荷下ろし作業中に、トラック荷台から墜落して首骨を骨折したもの。災害発生後に緊急搬送され、後日死亡した。	40301	221	1	～ 99
3	10 ～ 12	被災者は、駐車場修繕工事で使用するアスファルトを購入するため、工場のアスファルト出荷用ホッパー付近の駐車場に2 t ダンプトラックを駐車させていたが、午前中、被災者は、トラック助手席側後方付近の路面に仰向けで倒れている状態で発見された。	30199	221	1	1 ～ 9
3	8 ～ 10	家庭からの一般廃棄物を持ち込んだ一般女性が運転する軽トラックが、被災者の誘導により、ごみピット投入口までバックしようとした際に逸走し、荷台後方が、ピット投入口の端から1. 2 mの位置に退避していた被災者に接触し、そのはずみで深さ約6 mのごみピット内に墜落した。	150103	221	1	1 ～ 9
3	8 ～ 10	トラックの荷台上において、おが屑の積込み作業を行っていたところ、高さ約3 mの荷台より墜落した。トラックの近くに倒れているところを発見された。	10401	221	1	10 ～ 29
2	10 ～ 12	被災者が営業所車庫の駐車場で10 tトラックのキャビンの雪下ろし作業を行っていたところ、作業中に足を滑らせ、高さ約2. 7メートルの位置から墜落し、頭部を打ちつけ死亡したもの。	40301	221	1	10 ～ 29
2	10 ～ 12	被災者は、工場内石膏サイロにおいて、バルク車（粉粒体運搬車）に荷積み作業を行うためバルク車のタンク上方（高さ約3メートル）に上がり、タンク投入口とサイロ排出口の連結作業を行っている最中に転落したものと判断される。被災者は病院に運ばれたものの脳挫傷等により死亡した。	40301	221	1	30 ～ 49
		工場において、アジテーター車で生コンを建設現場に搬入するため				

1	8 ～ 10	に、伝票を取りに行くため、門の手前で停車させ下車したが、その後、アジテーター車後部で倒れていた状況で発見されたもの。災害発生直前の被災者の行動は目撃者がいないため不明であるが、被害の程度からして、アジテーター車後部の荷台及びステップに乗っていて墜落していたものと推定される。	10901	221	1	10 ～ 29
1	6 ～ 8	フォークリフトを使用して貨物自動車の荷台からフレコンバッグを卸すため、被災者が荷台上のフレコンバッグの上に乗って、フォークリフトのフォークに、フレコンバッグに取り付けたロープを結びつける作業を行っていたところ、バランスを崩し、2. 2 2 m下の地上に墜落した。	10805	221	1	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_37.html